



平成24年11月13日

各位

会社名 神姫バス株式会社  
代表者名 取締役社長 上杉雅彦  
(コード9083 大証第2部)  
問合せ先 企画部長 永井勝浩  
(TEL : 079-223-1243)

(訂正・数値データ修正あり)

「平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

平成24年8月7日に発表いたしました「平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」につきまして、一部訂正がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

訂正理由につきましては、本日開示の「過年度決算短信等の訂正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、訂正箇所が多数に及ぶため、訂正前及び訂正後の全文をそれぞれ添付し、訂正箇所には下線を付して表示しております。

以上

(訂正後)



## 平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月7日

上場会社名 神姫バス株式会社 上場取引所 大  
コード番号 9083 URL <http://www.shinkibus.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上杉 雅彦 (TEL) 079 (223) 1243  
問合せ先責任者 (役職名) 企画部長 (氏名) 永井 勝浩  
四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	9,824	0.8	243	<u>△19.5</u>	295	<u>△14.7</u>	216	84.7
24年3月期第1四半期	9,745	△2.4	302	<u>△33.2</u>	346	<u>△30.9</u>	117	<u>△40.2</u>

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 139百万円 (25.3%) 24年3月期第1四半期 111百万円 (217.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	<u>7.17</u>	—
24年3月期第1四半期	<u>3.88</u>	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	<u>46,824</u>	<u>31,399</u>	67.0	<u>1,040.74</u>
24年3月期	<u>46,461</u>	<u>31,419</u>	67.4	<u>1,038.60</u>

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 31,382百万円 24年3月期 31,318百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
25年3月期	—				
25年3月期(予想)		2.50	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	20,700	4.7	570	<u>△14.0</u>	600	<u>△18.2</u>	370	<u>8.9</u>	12.27
通期	41,200	3.1	1,000	<u>1.9</u>	1,100	<u>△3.7</u>	1,440	<u>24.6</u>	47.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：有
- ④ 修正再表示：無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期1Q	30,860,000株	24年3月期	30,860,000株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	706,205株	24年3月期	705,432株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期1Q	30,153,953株	24年3月期1Q	30,159,868株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(5) セグメント情報等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災からの復興需要に支えられ、緩やかに回復しているものの、欧州債務危機による海外経済の減速や長引く円高、厳しい雇用情勢などにより、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のなかで、企業価値増大に向け、バス輸送を中心とした輸送サービスの向上、成長分野としての生活サービス事業の展開を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比78百万円(0.8%)増の9,824百万円、営業利益は前年同期比58百万円(△19.5%)減の243百万円、経常利益は前年同期比50百万円(△14.7%)減の295百万円となりました。また、四半期純利益は、負ののれん発生益の計上や法人税の税率引下げの影響等により前年同期比99百万円(84.7%)増の216百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。なお、売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

#### ① 自動車運送

乗合バス部門は、平成24年3月に公営バスから路線を譲り受けたことに加え、高速バスにおいて収益路線を拡充したこと等により前年同期に比べ増収となりました。貸切バス部門は、震災の影響により東京ディズニーリゾートツアーが大幅に減少した前年同期に比べ増収となりました。タクシー部門は、稼働率の低下により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比146百万円(2.9%)増の5,114百万円、営業損益は燃料費及び減価償却費の増加等により前年同期に比べ18百万円(△48.8%)悪化し、56百万円の営業損失となりました。

#### ② 車両物販・整備

車両物販部門は、車両部品の販売が好調に推移したことに加え、新車購入補助制度(エコカー補助金)が再導入されたことにより自動車販売台数が増加しました。また、整備部門は、バス搭載機器(ドライブレコーダー)の取付や中古バスの改造、車体塗装等が増加したことにより増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比118百万円(8.2%)増の1,560百万円、営業利益は26百万円(53.2%)増の75百万円となりました。

#### ③ 業務受託

車両運行管理部門は、新規顧客の獲得はありましたものの、大口顧客の契約更新が出来なかったこと等により売上高は前年同期並となりました。経営受託部門は、姫路市等から新たに公共施設の管理・運営を受託したことにより増収となりました。介護部門は、サービス付き高齢者向け住宅「青山の郷」及び併設するデイサービス訪問介護施設「ケアサービス神姫あおやま」を開設したことにより増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比59百万円(8.2%)増の781百万円となりましたが、営業利益は介護部門におきまして人件費、減価償却費等が増加したこと等により前年同期比26百万円(△48.3%)減の28百万円となりました。

#### ④ 不動産

販売部門は、分譲地販売区画数及び建物販売戸数が共に減少したことにより、また、建設部門は、建築請負工事が減少したことにより減収となりました。賃貸部門は、平成23年12月に取得した「常温一括加古川センター」(物流センター)などが収入の確保に寄与し、増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比150百万円(△17.4%)減の715百万円、営業利益は前年同期比57百万円(△19.0%)減の242百万円となりました。

#### ⑤ レジャーサービス

飲食部門は、サービスエリア事業が高速道路休日上限千円割引が平成23年6月に終了したこと等により減収となりましたが、FC事業において新たな店舗を取得したことにより売上高は前年同期並となりました。レンタル部門・TSUTAYAは、太子店の売上高が引き続き伸びましたものの、姫路広峰店においてCD・DVDの販売が減少したこと等により前年同期並となりました。旅行部門は、国内募集型企画旅行の主力商品である「バスの旅」が好調に推移したことに加え、東日本大震災の影響により団体旅行の延期・キャンセルが発生した前年同期に比べ増収となりました。また、遊技場部門は、前連結会計年度より1円パチンコを導入するなど、増客施策を実施してまいりましたが、遊技者人口の減少や近隣店との競合により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比71百万円(△3.3%)減の2,102百万円、営業損益は前年同期に比べ29百万円改善しましたが、28百万円の営業損失となりました。

## ⑥ その他

清掃・警備部門は、車両清掃の増加等により堅調に推移いたしました。化粧品販売部門は、前連結会計年度に直営を含む5店舗を出店したことにより増収となりました。広告部門は、バスの車内広告等において新規顧客を獲得いたしました。売上高は前年同期比25百万円(8.4%)増の325百万円となりましたが、営業損益は、化粧品部門や農業部門の経費が増加したこと等により前年同期に比べ9百万円悪化し、12百万円の営業損失となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ362百万円増加し、46,824百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の増加1,443百万円、自動車運送事業における補助金未収の減少915百万円等でありま

す。負債は、前連結会計年度末に比べ382百万円増加し、15,424百万円となりました。増減の主なものは、賞与引当金の増加632百万円、定期券等の前受金の増加417百万円、未払金の減少473百万円、未払法人税等の減少234百万円、借入金の返済による減少137百万円であります。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加140百万円、少数株主持分の減少84百万円、その他有価証券評価差額金の減少76百万円等により、前連結会計年度末に比べ20百万円減少の31,399百万円となり、自己資本比率は67.0%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、平成24年5月15日に公表した予想から変更はありません。今後の事業環境や収益見通し等を見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を開示いたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

## (減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この変更に伴う損益に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,619	7,062
受取手形及び売掛金	1,855	1,746
未収運賃	770	608
有価証券	120	150
商品及び製品	395	406
仕掛品	15	100
分譲土地建物	1,276	1,264
原材料及び貯蔵品	95	75
その他	1,730	911
貸倒引当金	△12	△12
流動資産合計	11,864	12,313
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	23,549	23,619
減価償却累計額	△15,345	△15,432
建物及び構築物(純額)	8,203	8,187
機械装置及び工具器具備品	2,608	2,629
減価償却累計額	△2,179	△2,155
機械装置及び工具器具備品(純額)	429	473
車両運搬具	12,942	12,914
減価償却累計額	△10,731	△10,886
車両運搬具(純額)	2,211	2,028
土地	16,204	16,203
リース資産	3,231	3,555
減価償却累計額	△1,319	△1,473
リース資産(純額)	1,911	2,082
建設仮勘定	54	38
有形固定資産合計	29,014	29,013
無形固定資産		
のれん	50	47
その他	212	264
無形固定資産合計	262	311
投資その他の資産		
投資有価証券	3,085	2,945
その他	2,521	2,565
貸倒引当金	△286	△326
投資その他の資産合計	5,320	5,185
固定資産合計	34,596	34,510
資産合計	46,461	46,824

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,069	978
短期借入金	309	309
1年内返済予定の長期借入金	982	961
リース債務	618	709
未払金	3,114	2,641
未払法人税等	<u>431</u>	<u>196</u>
事故補償引当金	7	7
賞与引当金	857	1,490
過年度雑収計上旅行券引当金	14	14
その他	<u>1,672</u>	<u>2,277</u>
流動負債合計	<u>9,075</u>	<u>9,584</u>
固定負債		
長期借入金	1,286	1,169
リース債務	1,385	1,470
退職給付引当金	617	588
役員退職慰労引当金	125	109
負ののれん	4	3
その他	2,547	2,498
固定負債合計	<u>5,966</u>	<u>5,840</u>
負債合計	<u>15,041</u>	<u>15,424</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	<u>25,578</u>	<u>25,719</u>
自己株式	<u>△418</u>	<u>△418</u>
株主資本合計	<u>30,535</u>	<u>30,676</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	782	706
その他の包括利益累計額合計	<u>782</u>	<u>706</u>
少数株主持分	101	17
純資産合計	<u>31,419</u>	<u>31,399</u>
負債純資産合計	<u>46,461</u>	<u>46,824</u>



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	9,745	9,824
売上原価	<u>7,267</u>	<u>7,347</u>
売上総利益	<u>2,477</u>	<u>2,477</u>
販売費及び一般管理費	2,175	2,234
営業利益	<u>302</u>	<u>243</u>
営業外収益		
受取利息	6	4
受取配当金	23	22
持分法による投資利益	3	13
その他	32	28
営業外収益合計	<u>66</u>	<u>69</u>
営業外費用		
支払利息	6	6
固定資産除却損	2	5
その他	13	5
営業外費用合計	<u>22</u>	<u>17</u>
経常利益	<u>346</u>	<u>295</u>
特別利益		
運行補助金	14	19
車両等購入補助金	—	37
固定資産売却益	—	19
負ののれん発生益	—	52
特別利益合計	<u>14</u>	<u>128</u>
特別損失		
固定資産圧縮損	—	32
貸倒引当金繰入額	<u>3</u>	<u>36</u>
特別損失合計	<u>3</u>	<u>69</u>
税金等調整前四半期純利益	357	355
法人税等	<u>239</u>	<u>138</u>
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>117</u>	<u>216</u>
少数株主利益	0	0
四半期純利益	<u>117</u>	<u>216</u>

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>117</u>	<u>216</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	△75
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	<u>△6</u>	<u>△76</u>
四半期包括利益	<u>111</u>	<u>139</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>110</u>	<u>139</u>
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

[セグメント情報]

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,948	1,020	711	758	2,138	9,576	169	9,745
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19	421	11	107	35	594	130	725
計	4,967	1,441	722	865	2,173	10,171	300	10,471
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△38	49	54	299	△58	307	△3	304

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	307
「その他」の区分の利益	△3
セグメント間取引消去	△2
四半期連結損益計算書の営業利益	302

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	5,093	1,080	772	614	2,063	9,624	199	9,824
セグメント間の内部 売上高又は振替高	20	479	9	100	38	649	125	774
計	5,114	1,560	781	715	2,102	10,273	325	10,599
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△56	75	<u>28</u>	242	△28	<u>261</u>	△12	<u>248</u>

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	<u>261</u>
「その他」の区分の利益	△12
セグメント間取引消去	△5
四半期連結損益計算書の営業利益	<u>243</u>

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「車両物販・整備」セグメントにおいて、連結子会社である神姫産業株式会社の株式を追加取得したことにより負ののれん発生益を計上しております。

当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間において52百万円です。

なお、この負ののれん発生益は特定の報告セグメントに係るものではないため、全社の利益として認識しております。

(訂正前)



## 平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月7日

上場会社名 神姫バス株式会社 上場取引所 大  
コード番号 9083 URL <http://www.shinkibus.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上杉 雅彦  
問合せ先責任者 (役職名) 企画部長 (氏名) 永井 勝浩 (TEL) 079 (223) 1243  
四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無  
四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	9,824	0.8	240	△19.4	292	△14.6	250	111.8
24年3月期第1四半期	9,745	△2.4	298	△34.1	342	△31.7	118	△42.5

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 174百万円 (54.4%) 24年3月期第1四半期 112百万円 (149.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	<u>8.31</u>	—
24年3月期第1四半期	<u>3.92</u>	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	<u>47,093</u>	<u>31,672</u>	<u>67.2</u>	<u>1,049.79</u>
24年3月期	<u>46,682</u>	<u>31,658</u>	<u>67.6</u>	<u>1,046.50</u>

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 31,655百万円 24年3月期 31,556百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
25年3月期	—				
25年3月期(予想)		2.50	—	2.50	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	20,700	4.7	570	△13.4	600	△17.7	370	4.2	12.27
通期	41,200	3.1	1,000	3.1	1,100	△2.7	1,440	8.5	47.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：有
- ④ 修正再表示：無

(注) 「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期1Q	30,860,000株	24年3月期	30,860,000株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	706,205株	24年3月期	705,432株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期1Q	30,153,953株	24年3月期1Q	30,159,868株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(5) セグメント情報等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災からの復興需要に支えられ、緩やかに回復しているものの、欧州債務危機による海外経済の減速や長引く円高、厳しい雇用情勢などにより、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のなかで、企業価値増大に向け、バス輸送を中心とした輸送サービスの向上、成長分野としての生活サービス事業の展開を通じて安定した収益の確保に注力してまいりました。結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比78百万円(0.8%)増の9,824百万円、営業利益は前年同期比57百万円(△19.4%)減の240百万円、経常利益は前年同期比49百万円(△14.6%)減の292百万円となりました。また、四半期純利益は、負ののれん発生益の計上や法人税の税率引下げの影響等により前年同期比132百万円(111.8%)増の250百万円となりました。

セグメントの業績は次の通りであります。なお、売上高、営業利益はセグメント間の内部売上高又は振替高控除前の金額であります。

#### ① 自動車運送

乗合バス部門は、平成24年3月に公営バスから路線を譲り受けたことに加え、高速バスにおいて収益路線を拡充したこと等により前年同期に比べ増収となりました。貸切バス部門は、震災の影響により東京ディズニーリゾートツアーが大幅に減少した前年同期に比べ増収となりました。タクシー部門は、稼働率の低下により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比146百万円(2.9%)増の5,114百万円、営業損益は燃料費及び減価償却費の増加等により前年同期に比べ18百万円(△48.8%)悪化し、56百万円の営業損失となりました。

#### ② 車両物販・整備

車両物販部門は、車両部品の販売が好調に推移したことに加え、新車購入補助制度(エコカー補助金)が再導入されたことにより自動車販売台数が増加しました。また、整備部門は、バス搭載機器(ドライブレコーダー)の取付や中古バスの改造、車体塗装等が増加したことにより増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比118百万円(8.2%)増の1,560百万円、営業利益は26百万円(53.2%)増の75百万円となりました。

#### ③ 業務受託

車両運行管理部門は、新規顧客の獲得はありましたものの、大口顧客の契約更新が出来なかったこと等により売上高は前年同期並となりました。経営受託部門は、姫路市等から新たに公共施設の管理・運営を受託したことにより増収となりました。介護部門は、サービス付き高齢者向け住宅「青山の郷」及び併設するデイサービス訪問介護施設「ケアサービス神姫あおやま」を開設したことにより増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比59百万円(8.2%)増の781百万円となりましたが、営業利益は介護部門におきまして人件費、減価償却費等が増加したこと等により前年同期比24百万円(△48.8%)減の25百万円となりました。

#### ④ 不動産

販売部門は、分譲地販売区画数及び建物販売戸数が共に減少したことにより、また、建設部門は、建築請負工事が減少したことにより減収となりました。賃貸部門は、平成23年12月に取得した「常温一括加古川センター」(物流センター)などが収入の確保に寄与し、増収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比150百万円(△17.4%)減の715百万円、営業利益は前年同期比57百万円(△19.2%)減の242百万円となりました。

#### ⑤ レジャーサービス

飲食部門は、サービスエリア事業が高速道路休日上限千円割引が平成23年6月に終了したこと等により減収となりましたが、FC事業において新たな店舗を取得したことにより売上高は前年同期並となりました。レンタル部門・TSUTAYAは、太子店の売上高が引き続き伸びましたものの、姫路広峰店においてCD・DVDの販売が減少したこと等により前年同期並となりました。旅行部門は、国内募集型企画旅行の主力商品である「バスの旅」が好調に推移したことに加え、東日本大震災の影響により団体旅行の延期・キャンセルが発生した前年同期に比べ増収となりました。また、遊技場部門は、前連結会計年度より1円パチンコを導入するなど、増客施策を実施してまいりましたが、遊技者人口の減少や近隣店との競合により減収となりました。以上の結果、売上高は前年同期比71百万円(△3.3%)減の2,102百万円、営業損益は前年同期に比べ29百万円改善しましたが、28百万円の営業損失となりました。



## ⑥ その他

清掃・警備部門は、車両清掃の増加等により堅調に推移いたしました。化粧品販売部門は、前連結会計年度に直営を含む5店舗を出店したことにより増収となりました。広告部門は、バスの車内広告等において新規顧客を獲得いたしました。売上高は前年同期比25百万円(8.4%)増の325百万円となりましたが、営業損益は、化粧品部門や農業部門の経費が増加したこと等により前年同期に比べ9百万円悪化し、12百万円の営業損失となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## (資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ410百万円増加し、47,093百万円となりました。増減の主なものは、現金及び預金の増加1,443百万円、自動車運送事業における補助金未収の減少915百万円等でありま

す。  
負債は、前連結会計年度末に比べ395百万円増加し、15,420百万円となりました。増減の主なものは、賞与引当金の増加632百万円、定期券等の前受金の増加432百万円、未払金の減少473百万円、未払法人税等の減少235百万円、借入金の返済による減少137百万円であります。

純資産は、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加175百万円、少数株主持分の減少84百万円、その他有価証券評価差額金の減少76百万円等により、前連結会計年度末に比べ14百万円増加の31,672百万円となり、自己資本比率は67.2%となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の業績予想につきましては、平成24年5月15日に公表した予想から変更はありません。今後の事業環境や収益見通し等を見極め、業績予想の修正の必要性があれば速やかに修正を開示いたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

## (減価償却方法の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

この変更に伴う損益に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,619	7,062
受取手形及び売掛金	1,855	1,746
未収運賃	770	608
有価証券	120	150
商品及び製品	395	406
仕掛品	15	115
分譲土地建物	1,276	1,268
原材料及び貯蔵品	95	75
その他	1,730	912
貸倒引当金	△12	△12
流動資産合計	11,864	12,333
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	23,753	23,838
減価償却累計額	△15,349	△15,438
建物及び構築物(純額)	8,403	8,400
機械装置及び工具器具備品	2,608	2,629
減価償却累計額	△2,179	△2,155
機械装置及び工具器具備品(純額)	429	473
車両運搬具	12,942	12,914
減価償却累計額	△10,731	△10,886
車両運搬具(純額)	2,211	2,028
土地	16,225	16,224
リース資産	3,231	3,555
減価償却累計額	△1,319	△1,473
リース資産(純額)	1,911	2,082
建設仮勘定	54	54
有形固定資産合計	29,235	29,263
無形固定資産		
のれん	50	47
その他	212	264
無形固定資産合計	262	311
投資その他の資産		
投資有価証券	3,085	2,945
その他	2,274	2,283
貸倒引当金	△39	△43
投資その他の資産合計	5,320	5,185
固定資産合計	34,818	34,760
資産合計	46,682	47,093

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,069	978
短期借入金	309	309
1年内返済予定の長期借入金	982	961
リース債務	618	709
未払金	3,114	2,641
未払法人税等	<u>425</u>	<u>189</u>
事故補償引当金	7	7
賞与引当金	857	1,490
過年度雑収計上旅行券引当金	14	14
その他	<u>1,660</u>	<u>2,280</u>
流動負債合計	<u>9,058</u>	<u>9,580</u>
固定負債		
長期借入金	1,286	1,169
リース債務	1,385	1,470
退職給付引当金	617	588
役員退職慰労引当金	125	109
負ののれん	4	3
その他	2,547	2,498
固定負債合計	<u>5,966</u>	<u>5,840</u>
負債合計	<u>15,024</u>	<u>15,420</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,140	3,140
資本剰余金	2,235	2,235
利益剰余金	<u>25,817</u>	<u>25,992</u>
自己株式	<u>△418</u>	<u>△418</u>
株主資本合計	<u>30,774</u>	<u>30,948</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	782	706
その他の包括利益累計額合計	<u>782</u>	<u>706</u>
少数株主持分	101	17
純資産合計	<u>31,658</u>	<u>31,672</u>
負債純資産合計	<u>46,682</u>	<u>47,093</u>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	9,745	9,824
売上原価	<u>7,272</u>	<u>7,350</u>
売上総利益	<u>2,473</u>	<u>2,474</u>
販売費及び一般管理費	2,175	2,234
営業利益	<u>298</u>	<u>240</u>
営業外収益		
受取利息	6	4
受取配当金	23	22
持分法による投資利益	3	13
その他	32	28
営業外収益合計	<u>66</u>	<u>69</u>
営業外費用		
支払利息	6	6
固定資産除却損	2	5
その他	13	5
営業外費用合計	<u>22</u>	<u>17</u>
経常利益	<u>342</u>	<u>292</u>
特別利益		
運行補助金	14	19
車両等購入補助金	—	37
固定資産売却益	—	19
負ののれん発生益	—	52
特別利益合計	<u>14</u>	<u>128</u>
特別損失		
固定資産圧縮損	—	32
特別損失合計	<u>—</u>	<u>32</u>
税金等調整前四半期純利益	357	388
法人税等	<u>238</u>	<u>137</u>
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>119</u>	<u>250</u>
少数株主利益	0	0
四半期純利益	<u>118</u>	<u>250</u>

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	<u>119</u>	<u>250</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5	△75
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	△0
その他の包括利益合計	<u>△6</u>	<u>△76</u>
四半期包括利益	<u>112</u>	<u>174</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>112</u>	<u>174</u>
少数株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

[セグメント情報]

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,948	1,020	711	758	2,138	9,576	169	9,745
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19	421	11	107	35	594	130	725
計	4,967	1,441	722	865	2,173	10,171	300	10,471
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△38	49	<u>50</u>	299	△58	<u>303</u>	△3	<u>300</u>

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	<u>303</u>
「その他」の区分の利益	△3
セグメント間取引消去	△2
四半期連結損益計算書の営業利益	<u>298</u>

## II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	合計
	自動車運送	車両物 販・整備	業務受託	不動産	レジャーサ ービス	計		
売上高								
外部顧客への売上高	5,093	1,080	772	614	2,063	9,624	199	9,824
セグメント間の内部 売上高又は振替高	20	479	9	100	38	649	125	774
計	5,114	1,560	781	715	2,102	10,273	325	10,599
セグメント利益又はセ グメント損失(△)	△56	75	<u>25</u>	242	△28	<u>258</u>	△12	<u>245</u>

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食料品・雑貨・化粧品等の物品販売、広告代理、清掃・警備、農業等を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	<u>258</u>
「その他」の区分の利益	△12
セグメント間取引消去	△5
四半期連結損益計算書の営業利益	<u>240</u>

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「車両物販・整備」セグメントにおいて、連結子会社である神姫産業株式会社の株式を追加取得したことにより負ののれん発生益を計上しております。

当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間において52百万円です。

なお、この負ののれん発生益は特定の報告セグメントに係るものではないため、全社の利益として認識しております。